
01

参考資料

～基本構想を策定するにあたって～



「第7次都留市総合計画」の策定にあたって

名称

自治体全体の基本的な方針を示す上位計画であり、自治体経営の指針となるいわゆる総合計画は、各自治体によって「第〇次長期総合計画」や「〇〇市総合計画」など名称が異なり、近年では名称から「長期」という名称を外す自治体が増えてきました。

◆ 他自治体が「長期」を外す理由として・・・

- 01 「長期」という言葉には定義のあいまいさがあり、計画期間が不確実になりがちである。
- 02 変化の激しい現代において、固定的な「長期計画」にとらわれず、その都度最適な施策を展開できる。
- 03 5～10年後の長期的展望を予測することが難しく、実態に即した計画を立てることができる。



また、長期総合計画の策定根拠となっている「都留市自治基本条例」においても【第17条 市は、総合的かつ計画的な市政運営を行うため、基本構想及びこれを実現するための基本計画（以下「総合計画」という。）を策定するものとします。】と規定されており、「長期」を名称から外しているところであり、他自治体でも「長期」を外す自治体も増えてきております。

これらを勘案し、本市でも計画の名称を

“ 第7次都留市総合計画 ”

とし、計画書の中で期間と役割を明確に定義いたします。



○地域づくりの最上位に位置付けられる長期展望をもった行政運営の総合的な指針となる計画

言い換えると

“ まちの未来の設計図 ”

今から10年くらい先までの、まちづくりの目標や施策内容を書いたもの



総合計画を作る目的

01

市民の声を聞いたうえで市民がどんな町にしたいか決めることができる。

02

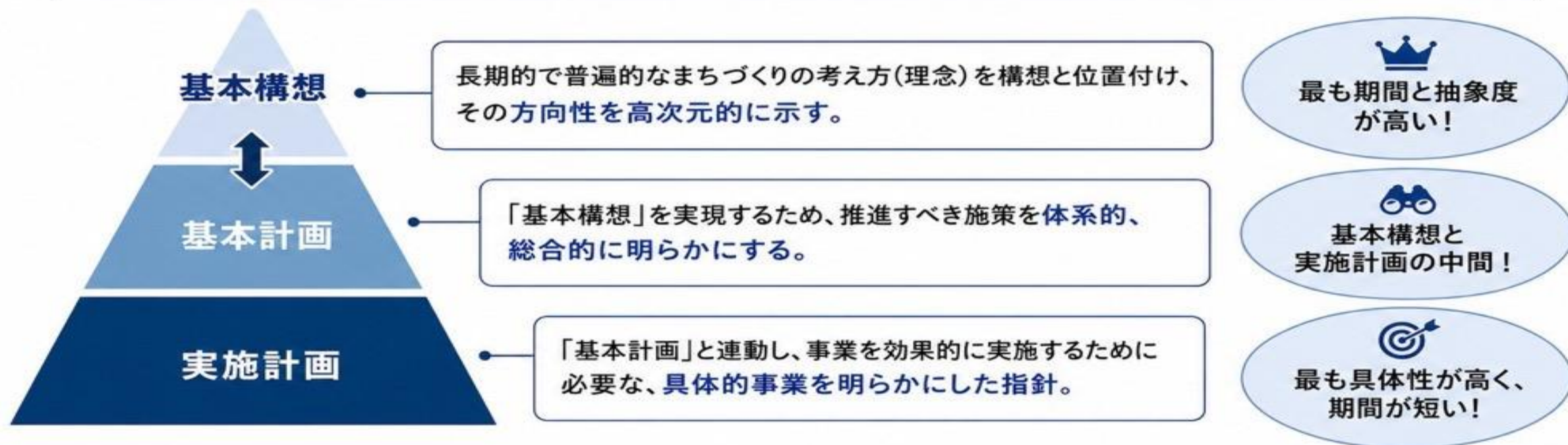
予算や事業の方向性をそろえることができる。

03

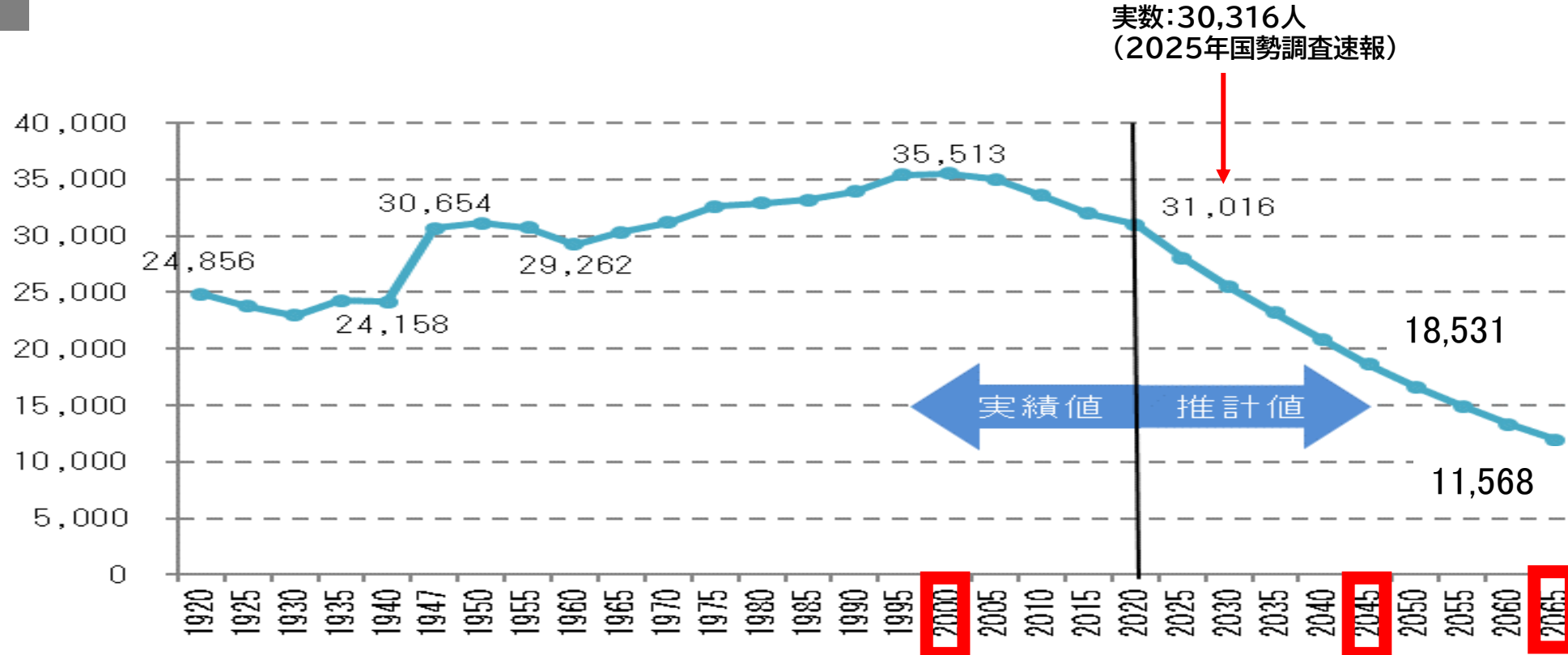
市役所の全ての計画の土台に

総合計画は三層構造

- ✓ **基本構想**・・・将来、都留市がどのようなまちになっているか、どうなるべきかを示す
- ✓ **基本計画**・・・基本構想に描いた将来像を叶えるため、どのような取組を進めるか示す
- ✓ **実施計画**・・・計画を進めるにあたって、予算との兼ね合いや具体的な取組を示す

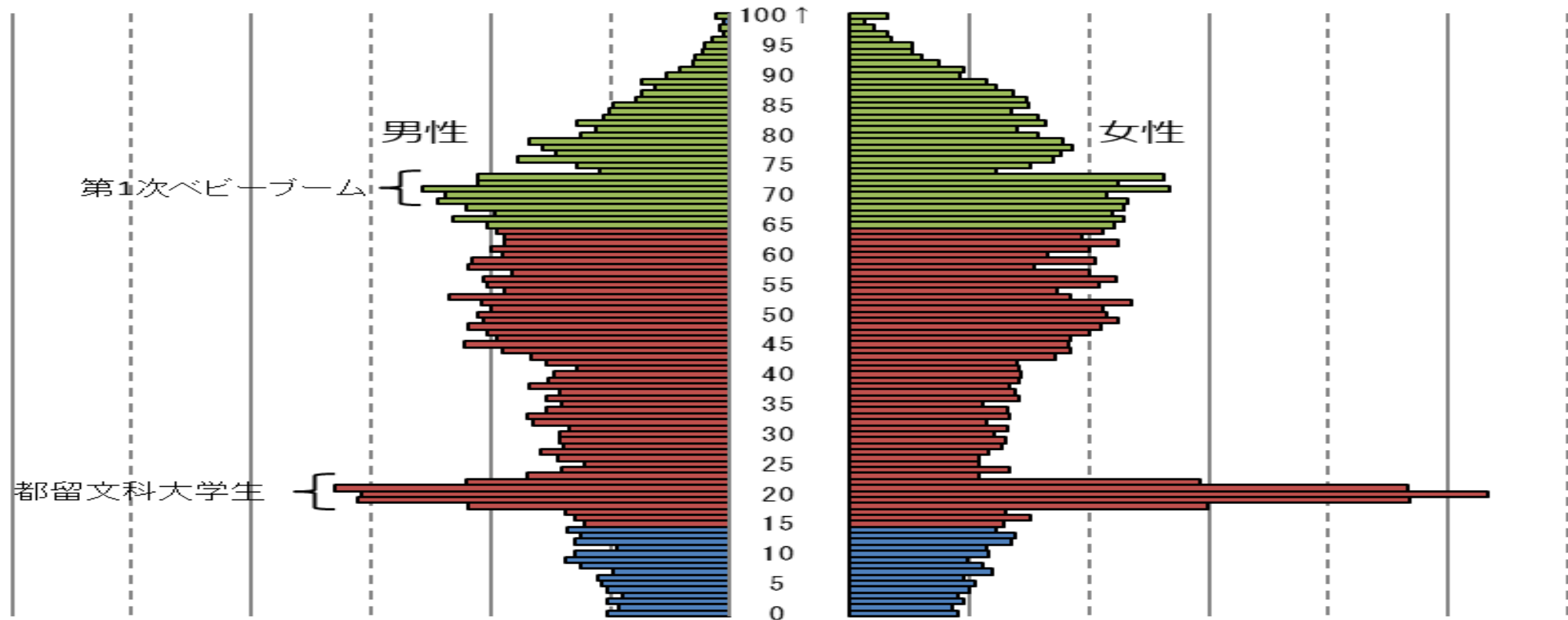


人口



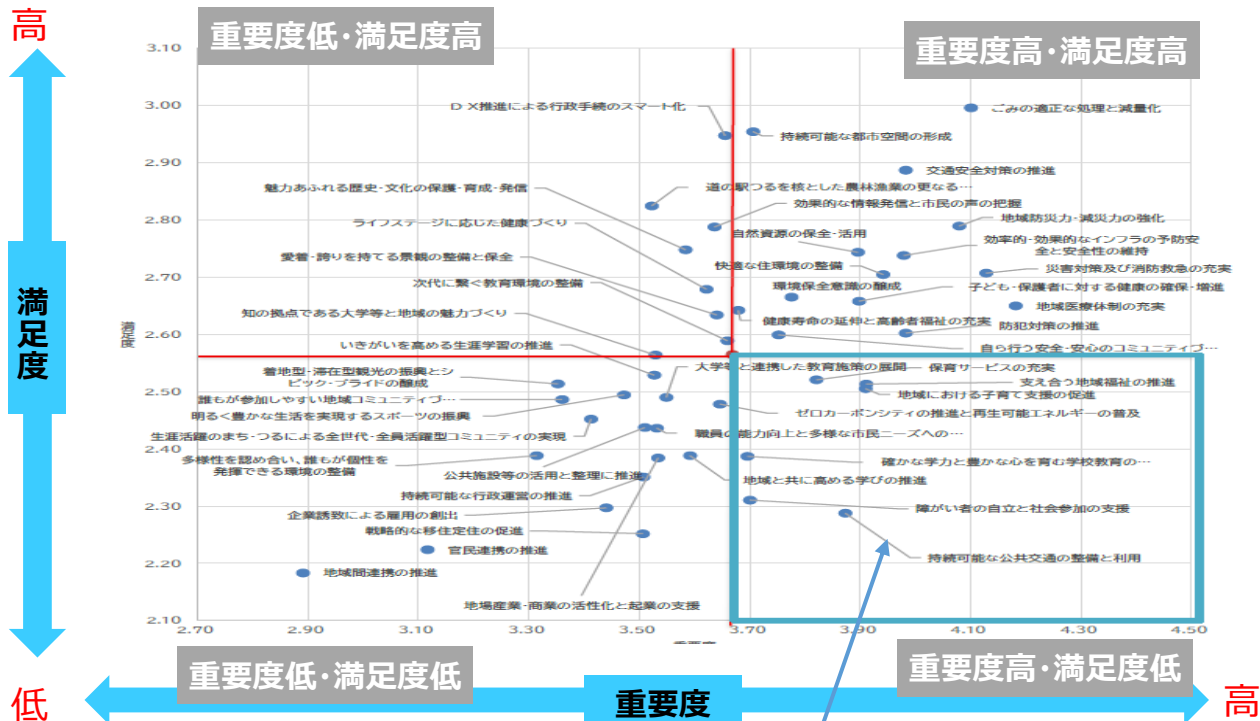
- ☑都留市の人口は、2000年をピークに緩やかな減少傾向にある。
- ☑2025年の実数は12年前に計測した推計値とほぼ同じ
- ☑2045年前後で人口が20,000人を割る。
- ☑2065年には都留市の人口は11,568人になると予想

人口ピラミッド



- ☑都留市の「人口ピラミッド」は「壺型」
- ☑他市町村にない特徴として、20～24歳の人口、特に女性人口が極端に多い
- ☑25～40歳までの層が少なく、地域での就職難により若年層が市外へ流出している

アンケート結果



重要度低・満足度高

重要度は低いものの、満足度が高く「**引き続き維持**」していく必要があるもの

重要度高・満足度高

重要度が高く、満足度も高い「**重点的に維持**」していく必要があるもの

重要度低・満足度低

重要度は低いものの、地域社会を維持するために満足度を高めていくべきもの

重要度高・満足度低

重要と感じている項目ではあるものの、満足度が低いため「**優先的に解決**」すべきもの

上記青枠は、「重要度が高く満足度が低いもの」であるため、優先的に解決する必要があります。子育て支援や地域福祉、学校教育の推進、公共交通の整備の対応が求められています。あわせて、その他の分野についても引き続き市民の理解や関心を高めていく必要があります。

【重要度低、満足度高の施策】

- ・道の駅つるを核とした農林漁業の更なる振興
- ・ライフステージに応じた健康づくり
- ・次代に繋ぐ教育環境の整備
- ・魅力あふれる歴史・文化の保護・育成・発信
- ・愛着・誇りを持てる景観の整備と保全
- ・DX推進による行政手続のスマート化
- ・効果的な情報発信と市民の声の把握

【重要度高、満足度高の施策】

- ・効率的・効果的なインフラの予防安全と安全性の維持
- ・持続可能な都市空間の形成
- ・子ども・保護者に対する健康の確保・増進
- ・健康寿命の延伸と高齢者福祉の充実
- ・地域医療体制の充実
- ・環境保全意識の醸成
- ・ごみの適正な処理と減量化
- ・自然資源の保全・活用
- ・快適な住環境の整備
- ・自ら行う安全・安心のコミュニティづくり
- ・地域防災力・減災力の強化
- ・災害対策及び消防救急の充実
- ・防犯対策の推進
- ・交通安全対策の推進

【重要度低、満足度低の施策】

- ・企業誘致による雇用の創出
- ・着地型・滞在型観光の振興とシビック・プライドの醸成
- ・地場産業・商業の活性化と起業の支援
- ・戦略的な移住定住の促進
- ・大学等と連携した教育施策の展開
- ・知の拠点である大学等と地域の魅力づくり
- ・地域と共に高める学びの推進
- ・いきがいを高める生涯学習の推進
- ・明るく豊かな生活を実現するスポーツの振興
- ・ゼロカーボンシティの推進と再生可能エネルギーの普及
- ・生涯活躍のまち・つるによる全世代・全員活躍型コミュニティの実現
- ・誰もが参加しやすい地域コミュニティづくり
- ・多様性を認め合い、誰もが個性を発揮できる環境の整備
- ・地域間連携の推進
- ・職員の能力向上と多様な市民ニーズへの対応
- ・持続可能な行政運営の推進
- ・公共施設等の活用と整理に推進
- ・官民連携の推進

【重要度高、満足度低の施策】

- ・地域における子育て支援の促進
- ・保育サービスの充実
- ・支え合う地域福祉の推進
- ・障がい者の自立と社会参加の支援
- ・確かな学力と豊かな心を育む学校教育の推進
- ・持続可能な公共交通の整備と利用

アンケート結果

	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代	
	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪	良	悪
市内の賑わいについて	14.8	18.5	13.4	11.5	24.4	11.1	26.9	19.4	14.7	26.4	9.7	42.5	16.6	35.4	9.5	32.4
労働求人について	11.1	3.7	11.5	11.6	11.1	15.5	16.4	16.5	7.4	20.0	2.7	24.8	5.2	25.0	9.5	9.5
行事やイベントなどの地域活動について	25.9	3.7	28.9	13.4	33.3	13.4	37.4	22.4	15.8	12.6	15.0	23.9	14.6	15.7	20.3	8.2
市民レベルでのまちづくり活動について	22.2	7.4	23.1	3.8	15.6	11.1	19.4	13.4	18.9	7.4	10.6	15.0	14.6	11.5	18.9	9.5
学生レベルでのまちづくり活動について	25.9	11.1	25.0	7.7	17.8	4.4	28.4	6.0	25.3	6.4	14.2	9.7	19.8	5.2	16.2	5.4
市外や県外からの都留市の評価について	22.2	3.7	26.9	3.8	26.6	2.2	31.4	7.5	20.0	8.4	15.1	14.1	15.6	13.5	19.0	8.1
観光客の来訪について	25.9	14.8	26.9	5.7	28.8	2.2	40.3	6.0	21.1	4.3	23.9	13.2	17.7	12.5	10.9	8.1
市内の大学について	33.3	3.7	32.6	7.7	35.6	4.4	38.8	6.0	40.0	1.1	21.3	3.6	36.4	3.1	32.5	4.1
市の取り組み全般について	33.3	0.0	26.9	7.6	35.6	0.0	35.9	6.0	27.4	6.3	22.2	8.0	23.9	6.2	37.9	2.8

国勢調査

【参考】2025年国勢調査（速報値）
・人口：30,316人（男性：14,533人、女性：15,777人）
⇒本市の人口減少は他市と比較すると十分抑えられている。



●第6次の総合計画を基本として検討する理由として・・・

市民WG資料でも触れておりますが、本市の人口減少率県内の市で見ると上から3番目であり、かつ人口推移の目標値についてもほぼ達成している現状であります。

すべてが施策・政策のおかげというわけではありませんが
「第6次の施策・政策については一定の効果があった」と捉えております。

市町村別人口の増減数

順位	市町村名	増減数(人)
1	昭 和 町	890
2	富士河口湖町	415
3	甲 斐 市	232
4	山 中 湖 村	37
5	丹 波 山 村	△ 17
6	鳴 沢 村	△ 63
7	忍 野 村	△ 81
8	小 菅 村	△ 81
9	道 志 村	△ 164
10	早 川 町	△ 170
11	南アルプス市	△ 209
12	西 桂 町	△ 433
13	都 留 市	△ 706
14	南 都 留 町	△ 827
15	富士 川 町	△ 1,033
16	中 央 市	△ 1,098
17	藤 崎 市	△ 1,285
18	市 川 三 郷 町	△ 1,333
19	丹 波 山 村	△ 1,742
20	上 野 原 市	△ 1,796
21	山 梨 市	△ 2,140
22	北 杜 市	△ 2,227
23	甲 州 市	△ 2,245
24	大 月 市	△ 2,467
25	南 都 留 町	△ 2,675
26	富士 吉 田 市	△ 2,883
27	身 延 市	△ 5,981

市町村別人口の増減率

順位	市町村名	増減率(%)
1	昭 和 町	4.3
2	富士河口湖町	1.6
3	山 中 湖 村	0.7
4	甲 斐 市	0.3
5	南アルプス市	△ 0.3
6	忍 野 村	△ 0.9
7	鳴 沢 村	△ 2.2
8	都 留 市	△ 2.3
9	甲 州 市	△ 3.1
10	丹 波 山 村	△ 3.2
11	中 央 市	△ 3.5
12	南 都 留 町	△ 4.0
13	藤 崎 市	△ 4.4
14	北 杜 市	△ 5.1
15	富士 吉 田 市	△ 6.2
16	山 梨 市	△ 6.4
17	富士 川 町	△ 7.3
18	市 川 三 郷 町	△ 7.7
19	上 野 原 市	△ 7.9
20	市 川 三 郷 町	△ 9.1
21	道 志 村	△ 10.2
22	西 桂 町	△ 10.7
23	大 月 市	△ 11.0
24	南 都 留 町	△ 11.6
25	小 菅 村	△ 11.8
26	早 川 町	△ 15.5
27	身 延 市	△ 18.3

★第6次都留市長期総合計画のアンケート結果

●「市内の賑わいについて」は、10代および50代以上は悪くなったと回答した割合が高く、特に50代以上は顕著である一方、20代から40代の市民は良くなったと回答した割合が高い。

●「労働求人」については、ほぼ全世代を通して労働求人については悪くなったと回答。

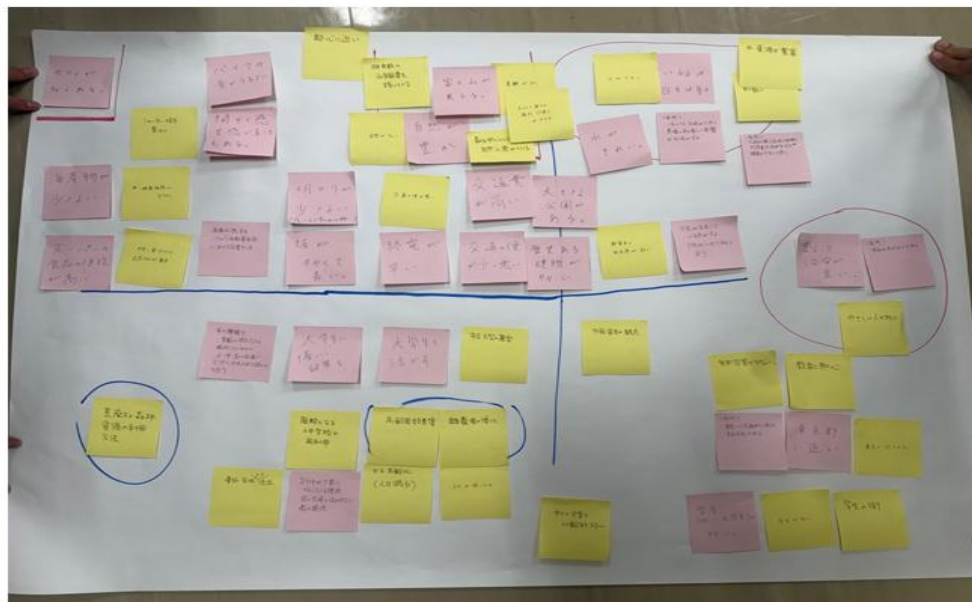
●「行事やイベントなどの地域活動について」は、60代、70代を除く世代で良くなったと回答。

●「市民レベルでのまちづくり活動」、「学生レベルでのまちづくり活動」、「市外や県外からの都留市の評価」、「観光客の来訪について」、「市内の大学について」、「市の取組全般について」はおおよそ高い評価を得ている。



★特に本市の特色の1つでもある「市内の大学について」や「市の取組全般について」は高い評価を受けており、一定の評価をいただいているため、施策・政策においては「**第6次都留市長期総合計画**」を基本として「**第7次都留市総合計画**」を策定していく方針である。

Aグループ



■良い意見／■悪い意見／■意見・要望 ※一部抜粋

分類	コメント
教育	■ 学生が多い
	■ 教育に熱心
	■ 人材がよい
	■ 小中高への支援の充実
	■ 学生に優しい政策が必要
	■ 廃校となる学校の活用
	■ 市立大学の誘致
自然	■ 自然が豊か・景観がよい
	■ 水がきれい
	■ 富士山がよく見える
	■ 日照時間が長い
	■ 自然災害が少ない

自然	■ 日本有数の山岳風景を持っている
	■ 晴れている日が多い
	■ 気候が安定しており、暮らしやすい気がする
	■ 荒廃する森林資源の利用方法を検討するべき
交通・アクセス	■ 都心に近い
	■ 交通の便が悪い
	■ 交通費が高い
	■ 終電が早い
人	■ 自動車が必要になっている
	■ 市民がおだやか
	■ やさしい人が多い
	■ 閉塞感を感じる時がある
職・人の流れ	■ 県外への人口流出が多い
	■ 少子高齢化が進み人口が減少している
	■ 若い夫婦の住みやすい場所の提供
	■ 大きな公園がある
建物・観光	■ 歴史ある建物が多い
	■ カフェが多い
	■ 大学の前にお店が集中している
	■ 娯楽施設が少ない
	■ シャッター街が閑散としている
	■ 外国資本の観光をするべき
防災・防犯	■ 治安が良い
	■ 明かりが少なく夜、道を歩くと怖い
	■ バイクの騒音がうるさい
その他	■ 高齢者の経費が増えている
	■ 離農者が増えている
	■ 都留市の知名度が低い・PRが不足している

第7次都留市総合計画の市民WGは5月～7月にかけて計3回行いました。1回目の会では「都留市の課題」や「都留市の長所」をワークショップ形式で出し合い、第2回目のWGではデータを見ながら政策・施策を協議いたしました。また、3回目では「まちづくりのテーマ」を決め、それをもとに将来像を決定いたしました。

■ 基本構想と基本計画の関連性について

WGの結果

基本構想

「安心」をキーワードにした都留市の未来像をワーキンググループメンバーの意見から策定。

基本計画

下記のとおり、「5つの分野」と「キーワード(安心)」を基に基本計画を策定。

